

課題研究以外の研究開発 3

地域や同窓会との連携

1 目的と期待される効果

(1) 目的

地域や同窓会（鹿山会）の組織の中で，グローバルな社会課題の解決に向け活動している団体や支部との繋がりを活かし，社会の現状や課題について講義や講演を受けることで，社会課題について理解するとともに課題を実感し現実的に捉える。

(2) 期待される効果

多文化共生社会を構築できる人材としての基礎を身に付けることが期待できる。

2 内容

(1) 佐倉国際交流基金の協力を得て，地域で暮らす外国人との交流の機会を設けた。地元自治体，地域の小学校，幼稚園，保育園を生徒が訪問し，インタビュー調査により課題を認識した。

(2) 本校同窓生員であり，地元に住居し，各分野（建築，法曹，TV関係等）の第一線で活躍する，国際経験の豊富な方々から講話を受け，世界の情報・動向を把握する。

3 実施方法

(1) GL探究の調査の中で継続的に協力していただく。

(2) 海外派遣研修の際に，講演者から世界各国の情勢についてレクチャーを受ける。

4 実施内容

(1) 『佐倉国際交流基金』との交流

① 課題研究2年「ハラールラーメン」研究班

ア 日時 令和元年年10月20日（日）

イ 場所 本校 家庭科室

ウ 対象 佐倉国際交流基金を通じて，ハラールラーメンの試食・助言者を集めていただく。当日は，アフガニスタン人イスラム教徒3名，アフリカ系イスラム教徒1名，日本人ボランティア2名の協力をいただいた。

エ 目標 自分たちが考案・調理したハラール食材をつかったラーメンを試食していただき，助言をいただく。それを今後の課題発表の提案に活かす。

オ 内容

- ・ 2種類のハラールラーメンを提案（ A 鯛味 B 海老味 ）
- ・ とともに鮮魚，生エビから調理。
- ・ 醤油は，GLアクティブで訪れた千葉醤油のハラール認定醤油を利用

カ 助言・感想

- ・ 魚，エビとも普段食べ慣れていないため，少々，違和感があった。
- ・ チキン味の方が，抵抗なく受け入れてもらえそうである。

② 課題研究1年「在日外国人について広めよう」班が，在住外国人日本語ボランティア

ア 日時 令和元年11月17日（日）

イ 場所 佐倉市ミレニアムセンター

ウ 内容 佐倉国際交流基金が主催する「日本語講座のつどい」に本校1年生が参加・協力。東南アジアを中心とした多様な外国人と交流。課題研究の一助とする。

(2)『佐倉小学校』との交流

① 課題研究2年「フードロス」研究班

ア 日 時 令和元年10月28日(月)

イ 場 所 佐倉小学校

ウ 対 象 佐倉小学校6年生4クラス120名

エ 目 標 課題研究中の「フードロス」の学びを、小学生対象にアレンジし伝える。

オ 内 容 佐倉小学校の全面的な協力体制のおかげで実現するプログラムである。授業時間を1時間いただき、大ホールにおいて4クラス120名の生徒を対象にプレゼンテーションを実施した。給食をテーマにしたものだったので、生徒の反応は良く、多くの意見・質問が寄せられた。



(3) 同窓会との連携(再掲)

ア 日 時 令和2年1月9日(木)

イ 場 所 本校地域交流施設

ウ 目 的 ドイツ及びデュッセルドルフに関する情報を得る。
起業の心得、「ボンサイ」ビジネスの話をうかがい、課題研究に活かす。

エ 対 象 2年生SGHドイツ海外派遣生徒(10名)、希望生徒(6名)

オ 講 師 寒郡 茂樹氏(起業家、本校同窓会副会長)

カ テーマ 「世界の市場を視野に入れたビジネスモデルについて学ぼう」

キ 内 容 ビジネスでドイツ各地、特にデュッセルドルフ市に度々訪問し造詣の深い寒郡氏より、ドイツ人気質や文化、街の様子、商業における見本市の役割、千葉県とデュッセルドルフ市のつながりなどについてお話しいただいた。また、自身の起業体験、起業のノウハウ、「ボンサイ」ビジネスをヨーロッパで展開した際の体験談をお話しいただいた。後半部分では、生徒の課題研究に関連した質問に丁寧に答えていただいた。グローバル人材として、語学力ももちろんであるが、様々なことにチャレンジし経験を積んで実務能力を備えていくこと、異文化への理解と共に、自国の文化を深く理解し発信できることが大事だという激励の言葉をいただいた。

ク 生徒の質問テーマ

- ・ヨーロッパでは農泊ビジネスが展開されているのか
- ・世界での地域活性化の成功事例
- ・ヨーロッパでの「緑茶」の可能性
- ・ジェンダー問題の日本とヨーロッパの違い



5 成果と課題

同窓会との連携については、今年度もドイツに係る講演をしていただいた。生徒は、異文化を理解すること、グローバル社会の課題、グローバル社会での自己の在り方などについて考えを深めることができた。地域との連携については、昨年に引き続き、佐倉市内の小学校で生徒が模擬授業を行った。生徒は、グローバルな課題の解決には地域の教育が不可欠であることを改めて認識していた。また、佐倉市役所と連携して課題研究に係るワークショップに生徒が参加した。これらは、生徒にとって自己の研究が地域の課題解決に生かされていることを実感できる活動となっている。